



町勢要覧

つなぐ つながる 菊陽

合併70周年記念



空から菊陽町
成長しつづける菊陽町
の様子をドローン映像
でお楽しみください。

熊本県菊陽町

KIKUYO ごあいさつ TOWN

菊陽町は、昭和30年に3村が合併して、人口12,115人の村として誕生し、今年、合併から70周年という節目の年を迎えました。これもひとえに、町を築き、支えてこられた全ての町民の皆様、そして、本町に関わってくださった多くの方々のご尽力とご支援の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

振り返りますと、白川中流域の豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた菊陽町は、農業を中心に栄えてきました。その後、都市基盤整備や土地区画整理など、先人たちの将来を見据えたまちづくりによって、豊かな自然と都市機能が調和する町として発展し、近年では、大型の商業施設や多くの世界的な企業が進出し、活力があふれる町へと成長してきました。

これまでの歴史に敬意を表するとともに、70周年という節目を新たなスタートとし、本町のめざすまちの姿「ともに 輝き 成長しつづけるまち 菊陽」の実現に向けて、これからも取り組んでまいります。

この度合併70周年を記念して発刊しました「町勢要覧」が、本町の歴史や取り組みを振り返る一助になりますと幸いです。

令和7年10月

菊陽町長 吉本孝寿



豊かさを未来へ「つなぐ」
人と人の笑顔が「つながる」



合併70周年記念ロゴマーク

町章をあしらい、菊陽町ならではの人口の増加、成長を右肩上がりのグラフ線で表現しています。

つなぐ つながる 菊陽

KIKUYO
TOWN

Contents.

- 04 第1章／つなぐ未来
 - 「菊陽」の原点…05
 - 70年のあゆみ…06
 - 成長の礎…10
 - これからのまちづくり…12
- 14 第2章／つながる笑顔
 - フォトギャラリー…15
- 18 Kikuyo Map
- 19 数字で見る菊陽町

つなぐ つながる 菊陽

第1章

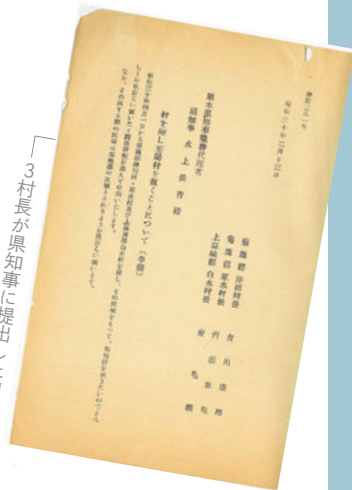
つなぐ未来

ここ菊陽は、恵まれた自然を大切に守りながら
魅力ある町を築いてきました。
先人たちの将来を見据えた取り組みが
今の私たちの暮らしを形づくっています。

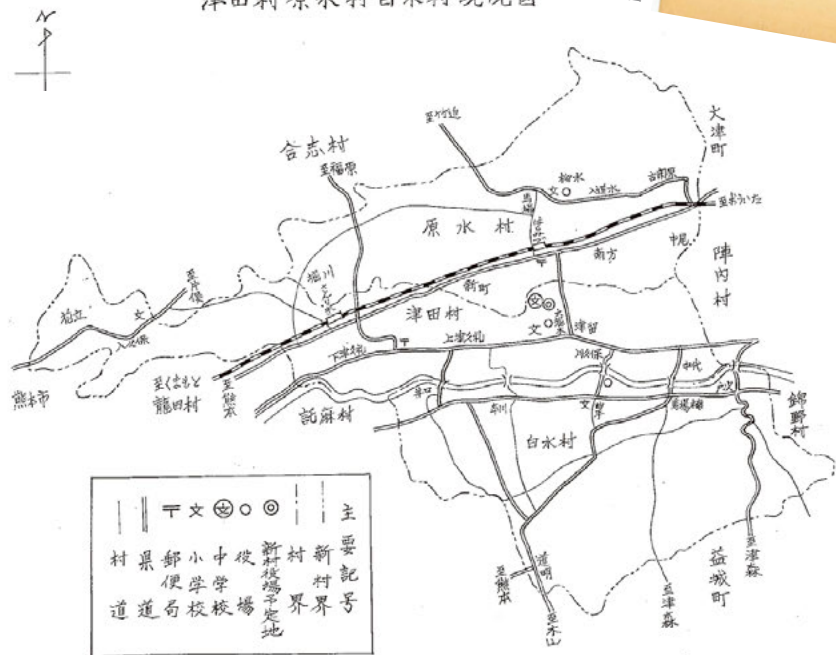
合併から70年を迎える今
これまでのまちづくりを未来につなぎ
さらなるあゆみを進めようとしています。



3村長が県知事に提出した申請書



津田村原水村白水村現況図



昭和30年、菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村の3つの村が合併し、本町の前身となる「菊陽村」が誕生しました。合併から70年を迎える今、まちのあゆみと共に成長の礎となった町の取り組みを振り返ります。

「菊陽」の原点

原水村

くはらみずむら

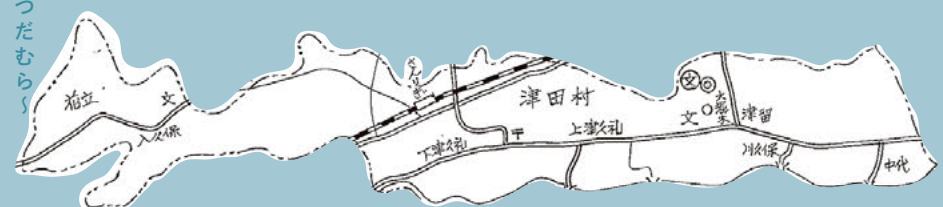
入道水村、柳水村、中尾村、南方村、新町、馬場村、鉄砲小路、古閑原村の8地区が合併し、明治12年に原水村が誕生しました。



津田村

つただむら

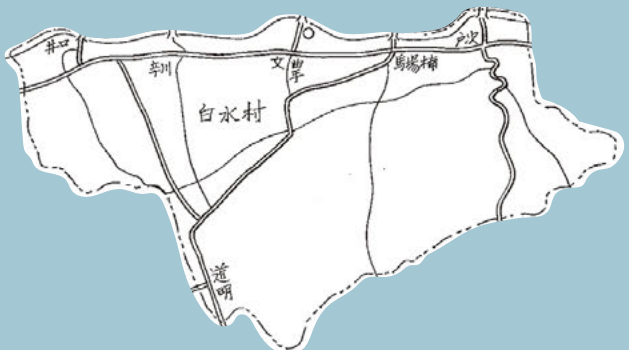
上中代村、中代出分村、中代村、川窪（川久保）村、津留村、大堀木村からなる「久保田村」と、上津久礼村、下津久礼村、新山村、八窪（八久保）、花立からなる「津久礼村」が合併し、明治22年に津田村が誕生しました。



白水村

くはくすいむら

古くは詫磨郡（現在の熊本市）に属していた戸次村、馬場楠村、曲手村、唐川（辛川）村が合併し、明治22年に上益城郡白水村が誕生しました。



菊陽 70年のあゆみ

「村」から「町」へ

昭和44年に町制を施行し「菊陽町」が誕生しました。

町制施行当時の人口は、約10,800人で、新熊本空港の建設が急ピッチで進められ、また、ほ場整備事業を開始した時期でした。

国指定産地「菊陽にんじん」

阿蘇の麓に位置する本町は、火山灰の影響で「黒ボク」が多い土が特徴です。黒ボク土は、保水性・透水性・通気性がよく、にんじんの栽培に適しています。このような恵まれた環境を生かして生産される高品質なにんじんは、昭和53年に冬にんじん、平成10年には春夏にんじんが、国の指定産地を受けました。

菊陽にんじん



誕生からのあゆみ

- 昭和30年 4月 ● 菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村が合併して「菊陽村」誕生 **1 2 3**
- 10月 ● 国勢調査 (2,069 戸、12,115 人)
- 昭和31年 11月 ● 旧役場庁舎が完成 **4**
- 昭和33年 4月 ● 菊陽村最初の保育園・もみじ園が開園 **5**
- 昭和37年 3月 ● 村営住宅・下原団地が完成 (以後、9団地を建設)
- 昭和39年 4月 ● 新産業都市建設促進法による地域指定
- 昭和40年 6月 ● 菊陽村商工会設立
- 昭和41年 3月 ● 菊陽村外4ヶ町村し尿処理組合 (現菊池広域連合) 設立
- 4月 ● 菊陽村農協設立
- 昭和43年 4月 ● 白菊園、白鈴園開園
- ほ場整備事業開始 (堀川第一地区他、以後各地域で実施)

- 昭和44年 1月 ● 町制施行で「菊陽町」誕生 **6**
- 4月 ● みどり園開園
- 8月 ● 町歌制作 (伸びる菊陽、菊陽音頭)
- 昭和45年 4月 ● さくら園開園
- 10月 ● 国勢調査 (2,329 戸、10,881 人)
- (株) 山内本店操業開始
- 昭和46年 1月 ● 阿蘇製菓 (株) 操業開始
- 2月 ● 第1期基本構想策定
- 4月 ● 新熊本空港開港 (現阿蘇くまもと空港)
- 5月 ● 熊本都市計画区域に編入
- 6月 ● 九州縦貫自動車道 (熊本～植木) 開通
- 10月 ● 農業振興地域に指定
- 昭和47年 3月 ● 町章制定
- 4月 ● 大津町外2ヶ町消防組合設立 (現在は消防・救急業務は菊池広域連合で実施)

- 昭和48年 3月 ● 町民体育館完成
- 4月 ● 県営武蔵ヶ丘団地へ入居開始 **7**
- 昭和49年 4月 ● 武蔵ヶ丘支所開庁 **8**
- 武蔵ヶ丘小学校開校
- 昭和50年 8月 ● 第1回夏まつり開催
- 昭和51年 4月 ● 武蔵ヶ丘第一保育園開園
- 昭和53年 4月 ● 武蔵ヶ丘第二保育園開園
- 6月 ● 役場新庁舎完成 **9**
- 菊陽にんじんが国の指定産地を受ける
- 昭和54年 4月 ● 大津菊陽水道企業団設立
- 11月 ● 町民総合運動場完成 (野球場他) **10**
- 昭和56年 4月 ● 武蔵ヶ丘中学校開校
- 昭和58年 2月 ● 下水道事業着工
- 11月 ● 東京エレクトロン (株) 操業開始 (現在はセミコンテックパーク他に移転)

国道57号（菊陽バイパス） 全線開通

平成4年4月に、町を横断する幹線道路として、国道57号（菊陽バイパス）が全線開通しました。交通の要所だけではなく、菊陽バイパスの沿線では、大規模な土地区画整理事業を行い、新たな住宅地や商業地などが形成され、その後の町の発展に大きく貢献しました。

開通した菊陽バイパス／開通式典の様子



杉がつなぐ絆 姉妹都市「屋久島町」

慶長9年（1604年）ごろ、加藤清正が「豊後街道菊陽杉並木」に屋久島の屋久杉を植えたという伝承がありました。この伝承をもとに、豊後街道菊陽杉並木の保全復元のために、屋久杉の幼杉を補植したことを縁に、互いに交流を重ね、平成6年に両町は姉妹都市盟約を結びました。

豊後街道菊陽杉並木



姉妹都市盟約記念
ブロンズ像「森の精」



屋久島自生の屋久杉の植樹式



9



10



12



11



13



14

- 昭和 59 年 4 月 ● 菊陽西小学校開校
- 12 月 ● ファナック（株）操業開始
- 昭和 60 年 3 月 ● 西部町民センター完成
- 4 月 ● 武蔵ヶ丘北小学校開校
- 昭和 61 年 8 月 ● 豊後街道が「日本の道 100 選」に選ばれる 11
- 昭和 62 年 3 月 ● 菊陽第一土地区画整理事業工事着手
- サンリー菊陽寿屋オープン（現サンリーカーノ菊陽）
- 昭和 63 年 8 月 ● 外国青年が英語指導助手として来町 12
- 11 月 ● 第1回農業祭開催（現すぎなみフェスタ）
- 平成 元年 3 月 ● 公共下水道一部供用開始
- 防災行政無線システム供用開始
- 11 月 ● 「町民憲章」・「町木（杉）、町花（菊）、町の鳥（ひばり）」制定
- 平成 2 年 4 月 ● 三里木町民センター完成
- 7 月 ● （株）林兼デリカ操業開始（現（株）マルハニチロ九州）

- 10 月 ● 国勢調査（6,784 戸、24,154 人）
- 「ガーデン・サバールふれあいの里づくり」事業がリーディング・プロジェクトの地域指定を受ける
- 平成 3 年 9 月 ● 台風 19 号により町内各地に被害発生
- 11 月 ● 第2テクノパークの建設が決定
- （現セミコンテクノパーク）
- 平成 4 年 4 月 ● 菊陽バイパス全線開通（6.7km）
- 12 月 ● 第3空港線（熊本益城大津線）全線開通
- 平成 6 年 4 月 ● ごみの指定袋制（有料化）スタート
- 5 月 ● 鹿児島県屋久島と姉妹都市盟約締結
- 平成 7 年 3 月 ● 「菊陽町史」発刊
- ふれあいの森公園完成
- 4 月 ● 菊陽町シルバー人材センター発足
- 10 月 ● 国勢調査（7,838 戸、26,273 人）
- 平成 9 年 4 月 ● 県立技術短期大学校開校

- 12 月 ● 菊陽空港線全線開通 13
- 菊陽第二土地区画整理事業工事着手
- 平成 10 年 2 月 ● 武蔵ヶ丘東ニュータウン（光の森）土地区画整理事業工事着手
- 3 月 ● 大菊土地改良区発足（現おおきく土地改良区）
- 6 月 ● 菊陽杉並木公園さんさんオープン 14
- 7 月 ● 菊池広域連合発足
- 平成 11 年 3 月 ● 国体道路東西線、南北線全線開通
- 9 月 ● 台風 18 号により町内各地に被害発生
- 10 月 ● JR豊肥本線電化運行開始（熊本～肥後大津間）
- 高円宮殿下・同妃殿下を奉迎し、くまもと未来国体開催（さんさん公園でアーチェリー競技）
- 11 月 ● 皇太子殿下・同妃殿下を奉迎し、ハートフルくまもと大会開催（さんさん公園でアーチェリー競技）
- 平成 12 年 6 月 ● 総合交流ターミナル「さんふれあ」オープン（温泉、物産品販売所など）

町の人口が4万人を突破

菊陽村が誕生した昭和30年の人口は、12,115人でした。昭和40年代以降の都市化の進展に伴い、町の人口は増加を続け、平成27年4月に4万人を突破しました。



人口4万人突破を記念したセレモニー

歴史上例を見ない大規模災害 平成28年熊本地震

被害記録	■4月14日	21:26	震度5弱（前震）
	■4月16日	1:25	震度6弱（本震）
	住宅被害	全壊 18、大規模半壊 71、半壊 622	
	人的被害	関連死 5人	



屋外に設置した災害対策本部

荒木雅博さん2000安打達成

大堀木出身の荒木雅博選手（中日ドラゴンズ）が、平成29年6月3日の楽天イーグルス戦で、史上48人目となる2000安打を達成しました。



花束と記念ボードを手にファンの声援に応える荒木選手



15



16



17



18



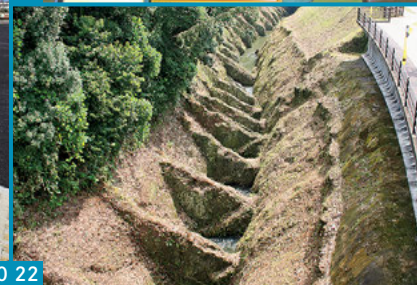
19



20 22



21



- 平成13年 10月 ● 国勢調査（9,119戸、28,360人）
- 平成13年 4月 ● スポーツクラブきくよう開設（県下初の総合型地域スポーツクラブ）（現NPO法人クラブきくよう）
- 平成14年 10月 ● ソニーセミコンダクタ九州（株）操業開始（現ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング（株））
- 平成14年 1月 ● 新運転免許センターオープン
- 平成14年 9月 ● 町内巡回バス運行開始（本格運行は平成15年10月）
- 平成15年 11月 ● 光の森分譲開始
- 平成15年 3月 ● ふれあい交流・福祉支援センター完成
- 平成15年 10月 ● 菊陽町図書館オープン（ホールは8月）**15**
- 平成16年 4月 ● 南部町民センター完成
- 平成16年 ● 人口3万人突破
- 平成16年 6月 ● ゆめタウン光の森オープン
- 平成16年 10月 ● 熊本北郵便局開局

- 平成17年 4月 ● 菊陽第一土地区画整理事業換地処分公告
- 平成17年 10月 ● 国勢調査（11,358戸、32,434人）
- 平成18年 3月 ● JR光の森駅開業 **16**
- 平成18年 10月 ● 富士フィルム九州（株）操業開始（現富士フィルムマテリアルマニュファクチャリング（株））
- 平成19年 7月 ● 原水工業団地分譲開始
- 平成19年 8月 ● 武蔵ヶ丘東ニュータウン（光の森）土地区画整理事業換地処分公告
- 平成19年 11月 ● ハンズマン菊陽店オープン
- 平成20年 2月 ● 鹿児島県屋久島町と新姉妹都市盟約締結 **17**
- 平成21年 4月 ● にんじん焼酎「酔紅（よいべに）」開発
- 平成22年 10月 ● 国勢調査（14,124戸、37,734人）
- 平成23年 3月 ● 第5期総合計画基本構想策定
- 平成23年 4月 ● 窓口業務の日曜日開庁開始
- 平成24年 7月 ● 九州北部豪雨により町内各地に被害発生

- 平成25年 3月 ● 下原堀川線全線開通
- 平成25年 8月 ● 菊陽中部小学校の新校舎完成 **18**
- 平成26年 1月 ● （株）愛歯操業開始
- 平成27年 3月 ● 光の森町民センター「キャロピニア」開庁 **19 20**
- 平成27年 ● （武蔵ヶ丘支所移転）
- 平成27年 4月 ● 学童クラブきくよう運営開始（現NPO法人子育てサポート学童クラブきくよう）
- 平成27年 ● 人口4万人突破
- 平成27年 10月 ● 国勢調査（15,950戸、40,984人）
- 平成27年 ● 合併60周年記念式典
- 平成27年 11月 ● 鼻ぐり井手公園（拡張分）オープン
- 平成27年 12月 ● 九州産交バス・光の森営業所開設
- 平成28年 4月 ● 平成28年熊本地震が発生
- 平成28年 10月 ● 町更生保護女性会が「安全・安心なまちづくり関係功労者」で内閣総理大臣賞受賞 **21**

防災力の強化による 安全安心のまちづくり

熊本地震の教訓を生かし、被災者支援拠点や防災拠点、避難拠点として、「光の森防災広場」「防災センター」「総合体育館」を整備しました。近年では、国や県、関係機関と連携した訓練や研修のほか、楽しく防災を学び体験できる「防災フェスタ」を開催し、災害に強いまちづくりを進めています。

防災フェスタでの救出訓練



友好交流都市「台湾宝山郷」

TSMCが本町への進出を表明したことを機に、農業や先端的な科学技術産業による飛躍的な発展など、多くの共通点を持つことから、台湾新竹県の宝山郷と友好交流協定を締結しました。その後、教育や文化、スポーツなどの分野で親交を深めています。

宝山郷を訪問

邱（きゅう）郷長らとの記念撮影



中学生同士の
バスケットボール交流



- 平成 29 年 12 月 ● 荒木雅博さんに町民栄誉賞授与
- 平成 30 年 3 月 ● 津森神宮お法使祭（馬場楠の獅子舞を含む）が県指定重要無形民俗文化財に登録
- 4 月 ● 学童クラブきくよう NPO 法人化
- 光の森交番設置
- 8 月 ● 白川流域かんがい用水群（馬場楠井手の鼻ぐりを含む）が世界かんがい施設遺産に登録
- 平成 31 年 1 月 ● 町制施行 50 周年記念式典
- 3 月 ● 馬場楠井手の鼻ぐりが県指定史跡に登録 22
- 4 月 ● 保育所民営化（5 園）
- 令和 2 年 3 月 ● 光の森防災広場完成 23
- 10 月 ● 国勢調査（17,794 戸、43,337 人）
- 令和 3 年 2 月 ● 菊池環境保全組合「クリーンの森合志」稼働
- 3 月 ● 第 6 期総合計画基本構想策定
- 10 月 ● 防災センター完成 24

- 令和 4 年 2 月 ● 菊陽第二土地区画整理事業換地処分の公告
- 令和 5 年 5 月 ● 原水駅北口バス転回広場の供用開始
- 熊本地域における地下水涵養推進に関する協定締結
- 7 月 ● 台湾新竹県宝山郷と友好交流協定を締結 25
- 10 月 ● 総合体育館完成 26
- 12 月 ● JR九州と新駅設置に係る覚書を締結
- 令和 6 年 1 月 ● JR光の森駅前歩道橋開通
- 2 月 ● 白川中流域における水田湛水推進に関する協定を締結
- プロスポーツチーム 3 チームとのフレンドリータウン（県内初）火の国サラマンダーズ、熊本ヴォルターズ、ロアッソ熊本
- 8 月 ● 白川中流域等における水稲作の推進及び農業振興に関する連携協定を締結
- 9 月 ● バリ 2024 パラリンピック車いすテニス女子ダブルスで田中愛美選手（町出身）が上地結衣選手とのペアで金メダルを獲得 27

- 12 月 ● Japan Advanced Semiconductor Manufacturing (株) 第 1 工場操業開始
- 令和 7 年 1 月 ● 菊陽町・屋久島町姉妹都市盟約締結 30 周年記念式典
- 3 月 ● 第 7 期総合計画基本構想策定
- 都市計画マスタープラン見直し
- 地域公共交通計画策定
- 4 月 ● 医療分野における連携協力に関する協定を締結
- 町立小中学校の給食費を完全無償化
- 保育所等の副食費を無償化 28
- にんじんジュース「うまCarrot」製品発表 29
- 5 月 ● 福祉センター リニューアルオープン
- 8 月 ● 県内の自治体で初となる地下水涵養を目的とした「雨庭」を整備 30



成長の礎

先人たちのまちづくりをたどる

先人たちは、基盤整備をはじめとした農業振興、幹線道路や公共下水道などの都市基盤整備、大規模な土地区画整理事業による住環境の整備に計画的に取り組んできました。その結果、本町は、農業、商業、工業、住環境、自然環境のバランスが取れた豊かなまちとして発展しました。

総合交流ターミナル「さんふれあ」



成長の礎

01

恵みを生かした農業の発展

菊陽の農業は、白川中流域の豊かな水と肥沃な土壌に支えられ、恵まれた自然環境を生かして発展してきました。昭和40年代以降は都市化が進む中、基盤整備にも取り組み、都市と農村の共存を図ってきました。また、平成12年にオープンした総合交流ターミナル「さんふれあ」は、都市部と農村部の交流を図る拠点として、農業の活性化と魅力の発信を進めています。



にんじん収穫の様子

成長の礎

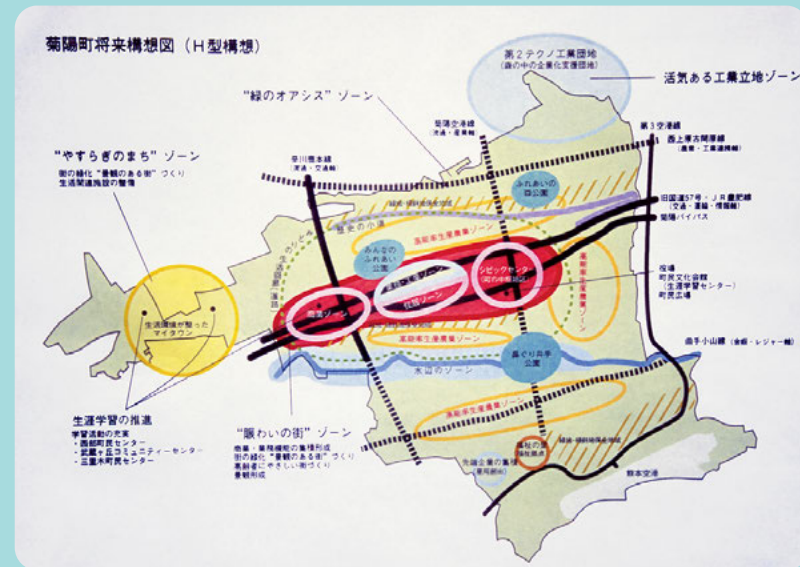
02

快適な生活環境の整備

主要な道路網の拡充や幹線道路の新設により、交通の利便性を高め、下水道事業などの都市基盤整備にいち早く取り組んだことで、住環境の質的向上を実現してきました。

これらの将来を見据えた取り組みは、その後の市街地の整備や人口増加を支える基礎となり、現在の町の発展につながっています。

菊陽町将来構想図（H型構想）昭和56年3月策定



工事が進む菊陽空港線



下水道管の敷設工事

区画整理により整備された町並み（平成 17 年撮影）



成長の礎

03

計画的な 市街地の形成

昭和50年代から、幹線道路と鉄道の沿線で、大規模な土地区画整理事業を積極的に進め、道路や公園、排水施設などの公共基盤を一体的に整備することで、質の高い面的整備を行ってきました。

土地区画整理事業による住環境や商業施設が調和したまちは、住みやすいまちのイメージを形成し、工業の発展と合わせて、町の人口増加や産業の活性化を支える原動力となっています。

区画整理前の様子（昭和 62 年撮影）



施工後の住宅地

成長の礎

04

活力を生み出す 企業誘致の推進

阿蘇くまもと空港や九州自動車道・熊本ICと近接している交通の利便性と、豊かな地下水などの町の特長を生かしながら、交通インフラの充実や工業団地の整備を進めたことで、製造業をはじめ、物流業など多様な企業の進出につながりました。雇用の拡大や税収の増加だけでなく、定住人口や交流人口を生みだし、町を支える大きな活力となっています。



ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社



富士フイルムマテリアルマニュファクチャリング株式会社



Japan Advanced Semiconductor Manufacturing 株式会社



造成工事が完了した原水工業団地

未来へつなぐ これからのまちづくり

世界的半導体製造企業の進出により、町を取り巻く環境が著しく変化していますが、本町は、先人たちが築き上げたバランスの取れた土地利用を継承し、町の魅力である農業や自然環境を守り育てます。その一方で、新たな市街地整備により、さらなる発展を図ります。そして何より、町民の皆様に「住んでよかった」と感じてもらえるよう、企業進出の効果を還元する取り組みを進めます。

市街地と農地や自然環境が調和した風景（令和5年10月撮影）



バランスの取れた土地利用

菊陽町の土地利用は、農業、商業、工業、住環境、自然環境のバランスが良いことが特長です。

これは、先人たちが、幹線道路や住宅地の整備など、計画的にまちづくりを進めてきたことの賜物です。町では、令和7年3月に都市計画マスタープランの見直しを行いました。この計画に基づいて、これまで築いてきた町の豊かさを、後世に引き継いでいきます。

国の指定産地を受けている「菊陽にんじん」



農業の振興

経済の発展や、人口の増加に対応するため、その受け皿となる商業地や工業地、住宅地を確保することが必要になります。

しかし、このような町を取り巻く社会情勢の変化に対応しながら、基盤整備がされた守るべき農地は適切に守り、農業後継者や新規就農者など、次世代を担う農業者の育成・確保を図り、町の魅力である農業や自然環境を守ります。

第7期 菊陽町総合計画 2025→2034



本編リンク



めざすまちの姿

ともに 輝き
成長しつづけるまち 菊陽



原水駅周辺の土地区画整理事業のイメージ図



新たな市街地整備

農業や自然環境を守る取り組みを進める一方で、さらなる町の発展を図るために、新たな事業にも挑戦します。

町は、JR新駅と原水駅の間で、駅を中心とした市街地整備に取り組みます。市街地整備の中では、「賑わい」「知の集積」「職住近接」の3つのエリアを設定して、交流人口や関係人口を創出する、半導体企業の集積地にふさわしい先進的なまちづくりに取り組みます。

介護予防教室に参加した高齢者／笑顔で給食を食べる児童



高齢者・子育て支援

企業進出による効果を町民の皆様に還元するため、高齢者支援や子育て支援など、さまざまな施策に取り組んでいます。

家族介護用品の購入費用に対する町独自の補助や、町立小中学校の給食の完全無償化と保育所等の副食費の無償化など、これまで町の発展を支えてくださった方々や、町の将来を担うこどもたちをはじめ、町民の皆様に「住んでよかった」と感じてもらえるまちづくりに取り組んでいます。



つなぐ つながる 菊陽

第2章

つながる笑顔

いつの時代も、
町の成長の中心には、
人々の笑顔がありました。

その笑顔は、
これからも町の未来を育んでいきます。



1955»»

1965

1975





»»2025



Kikuyo Map

面積

37.46 平方キロメートル
東西 11.8 キロメートル
南北 9.4 キロメートル

位置

東経 130°49' 43"
北緯 32°51' 45"
標高 92 メートル



菊陽町
ふるさと納税



【公式】菊陽町
PR チャンネル

合志市

菊陽町民歌「伸びる菊陽」

吉川幸義／作詞作曲
岩代浩一／編曲

新生都市の朝ぼらけ
今ぞ菊陽舞い昇る
進む時代に歩調を合わせ
拓く希望のパラダイス

九州一と誇りもつ
高遊原の大空港
光る銀翼未来の夢を
乗せて世界を羽けぐる

日本の象徴白菊の
永久の薫りの気高さよ
招く文化の工場の群も
歴史を彩る杉並木

流れも清き白川の
水も豊かな大耕野
阿蘇の情熱たたえてここに
伸びる菊陽栄えあれ

熊本市

菊陽町民歌「菊陽音頭」

吉村義三・枯野迅一郎／合作詩
岩代浩一／作曲

ハアー 紫に
けむる大阿蘇ほのぼのと
見やれ裾野は春霞
鉄砲小路も語り草
ソレ語り草
ソレソレ原水白水も
津田をはさんで輪になって
イヤサカサッソホイサッサ
(以下お囃子のま同じ)

ハアー 白川の
水の流れは万葉の
詩を湛えた恋の川
鼻ぐり井手なら清正公
ソレ清正公

ハアー そのむかし
殿の名指してこめ津久礼
窪田せつせと精出して

実る稲穂の黄金波
ソレ黄金波

ハアー 菊陽の
高遊原の空港は
とんぼがえりの人の波
宝つんだりおろしたり
ソレおろしたり

セミコンテクノパーク
原水工業団地
第二原水工業団地

●ふれあいの森公園
●ふれあいの森研修センター
●菊陽北小

鉄砲小路の生垣
アーバンスポーツ
施設予定地
総合体育館
さんふれあ
菊陽町図書館
菊陽杉並木公園
さんさん

菊陽西小
三三木
町民センター
ひかりの
もり公園

●新駅予定地
県道 337 号 (旧国道 57 号)
菊陽町役場
防災センター
中央公民館
福祉センター

町民総合運動場
菊陽中
菊陽中部小
町民体育館

上津久礼の川施飯鬼
上津久礼眼鏡橋
井口眼鏡橋
鼻ぐり井手
鼻ぐり井手公園
南部町民
センター

熊本県運転免許センター
六道塚古墳
菊陽南小

熊本 I.C
六分田古墳

熊本県運転免許センター
六道塚古墳

熊本県運転免許センター
六道塚古墳

熊本県運転免許センター
六道塚古墳

熊本県運転免許センター
六道塚古墳

熊本県運転免許センター
六道塚古墳

肥後大津

大津町



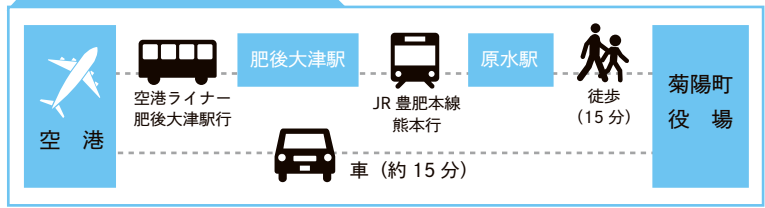
町花／菊 町の鳥／ひばり 町木／杉



●阿蘇くまもと空港

益城町

空港からのアクセス



町名の由来

菊池郡の南に位置し、
陽光「さん」と輝き、将
来が希望にあふれ、永
遠に発展することを願
い名付けられました。

町章



菊陽の“キ”を図案化し、
平和の鳥とのびゆく町を
表現したものです。

数字で見る 菊陽町 Kikuyo Data

町公式
ウェブサイト



さまざまな菊陽町の「今」を
数字で紹介します。

人口・世帯数

令和7年8月末時点

総人口

44,030人

[男性]

21,837人

[女性]

22,193人

世帯数

19,920世帯

外国人人口

1,161人

土地用途

3,746 ha

固定資産概要調査（令和7年度）

原野 8.2

田
750.9

畑
796.0

宅地
784.8

山林
395.6

雑種地
414.4

その他
596.1

学校・保育園
などの数

令和7年度時点

認可保育所等

20か所

認定こども園

4か所

小学校

6校

中学校

2校

指定
文化財

令和7年度時点

● 県指定文化財

3件

構成要素としての登録を含む

● 町指定文化財

19件



菊陽町 町勢要覧 ～ 合併 70 周年記念 ～

令和 7 年 10 月

発行／熊本県菊陽町

〒869-1192 熊本県菊池郡菊陽町大字久保田 2800 番地